東南おきたま　米づくり情報No.10

令和６年７月２３日
置賜総合支庁農業技術普及課
やまがた温暖化対応米づくり日本一運動置賜地域本部

出穂は平年並～やや早まる見込み！高温時の水管理は「飽水管理」や「間断かん水」で根の活力維持を図りましょう。
斑点米カメムシ類多い！斑点米カメムシ類防除を徹底しましょう。

今後の水管理の重要ポイント!

○出穂までは間断かん水（２日湛水・２日落水）を維持し、根の活力を維持する。穂揃期頃は最も水分を必要とする時期のため、湛水状態を保ち（花水）、水を切らさない。

○**花水を除き、水のためっぱなしは厳禁。**
（土壌の還元が進み、根へのダメージ大）

○**高温時は、「飽水管理」や「間断かん水」**で水田の水温と地温を下げるような水管理で根の活力を維持する。

※高温年の水管理のイメージについては、裏面をチェック！

１か月予報（７月１８日　気象庁発表）
気温：７/20～７/26：高い見込み
　　７/27～８/２：高い見込み
　　8/3～8/16　：高い見込み
降水量：平年並み～多い見込み
日照時間：少ない見込み

斑点米カメムシ類の発生：多い！

○高温年は登熟後半の発生量の増加に注意が必要です。

○斑点米カメムシ類の基本防除は、**「穂揃期」と「穂揃期の７～10 日後」の２回**です。適期防除を実践しましょう。

ｱｶﾋｹﾞﾎｿﾐﾄﾞﾘｶｽﾐｶﾒ

アカスジカスミカメ

○基本防除後に水田内のすくい取り調査を行い、発生が確認された場合には、「２回目防除の７～10 日後」の追加防除を行いましょう。

いもち病は早期発見！早期防除！

○**葉いもちが発生したほ場では、治療効果のある薬剤（ブラシン剤、トライ剤、カスミン剤等）で防除**を行いましょう。
※特別栽培の場合、使用できる農薬が生産計画で決まっているため、確認が必要です。

○**穂いもちの基本防除は「穂孕後期」と「穂揃期」の２回**です。葉いもちの発生が多いほ場では、「穂揃期の７日後」にも防除を実施しましょう。

葉いもちの病斑

○紋枯病は、穂孕後期と出穂期の２回、発病調査を行い、防除の要否を判断しましょう。

○昨年、**稲こうじ病の発生が見られたほ場では、出穂 20～10 日前に薬剤防除**を行いましょう。

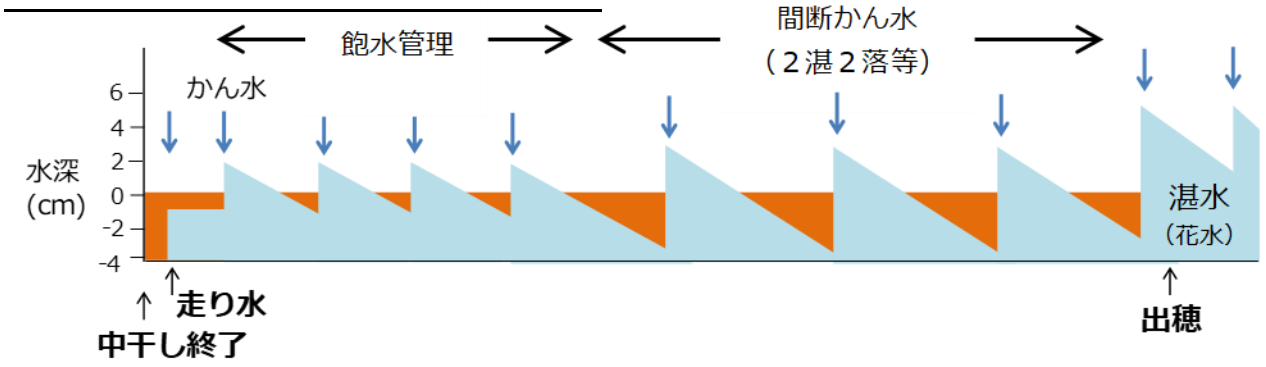
！農作業事故・熱中症に注意！
！山形県農薬危害防止運動実施中！

使い慣れている農薬でも、使用する前にその都度必ずラベルを確認し、希釈倍数等の使用基準や使用上の注意事項を遵守しましょう。

高温年の水管理のイメージ

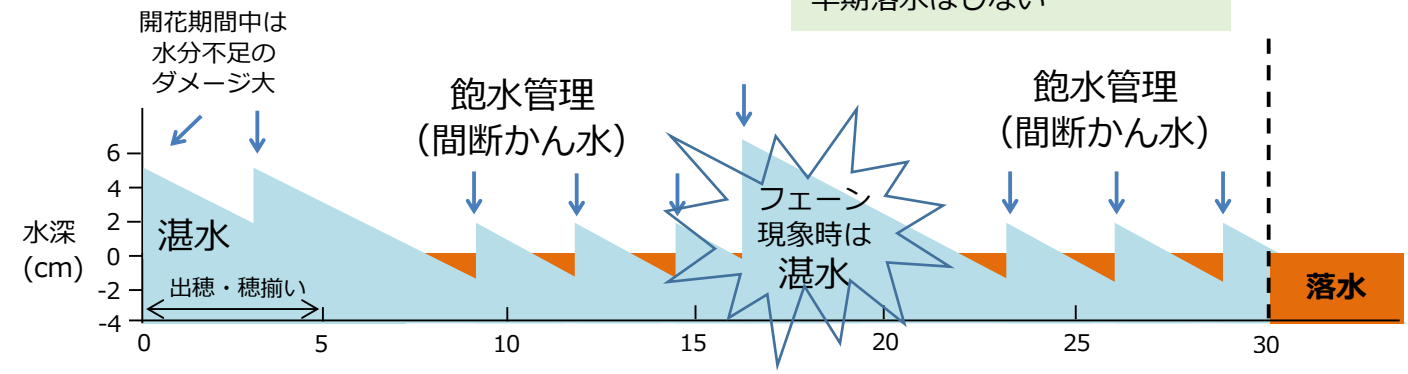
水のためっぱなしはダメ！

（1）中干し終了～出穂まで

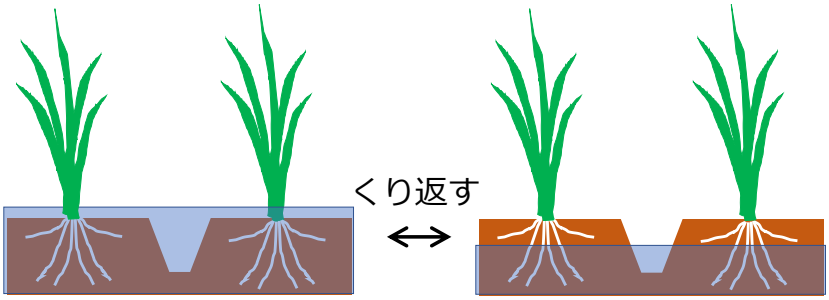


（2）出穂期以降

出穂後 30 日間は水を入れ、
早期落水はしない



【飽水管理のイメージ】



水深 1～2cm に入水　　田面マイナス 1～2cm 程度に減水

○「飽水管理」とは、地表（田面）に水は無いが、くぼみには溜まっていて、土壌が常に湿潤状態に保たれている状態です。
○湛水管理と比べて、夜間の地温が 0.5℃程度低くなります。
○土壌を酸化的に保つことができ、根の活力が維持されます。